

|           |          |       |       |
|-----------|----------|-------|-------|
| 科目名       | 教育方法学    | 科目責任者 | 牛田 伸一 |
| 課題と試験担当教員 | 牛田 伸一    |       |       |
| 履修方法      | T テキスト学習 |       |       |
| ナンバリング    | CTETC251 |       |       |

## ■ 科目概要

実践的指導力の土台の構築をこの授業では最終的な目的としています。実践的指導力とは、教師が教育実践において人格育成を目指し子どもにはたらきかける方法と技術の力量を意味します。この構築には、教育方法の実践活動の背後にはたらいっている理論の理解が不可欠です。「理論に基づかない実践は、ことの成り行きを見て有利な方につこうとする日和見主義になり、子どもを混迷に落とし込む」からです。「教育方法はその理論に基づいて実践の一貫性を保つことができ、その影響を持続させることができる」（本科目の教科書の2頁を参照）。

しかし、この実践的指導力の中身は教育方法学において、いまだに合意が得られていない問題の一つでもあります。したがって、この科目で身につけてもらおうと考えている力量そのものを、学習者自身が相対化し眺め省察できる構えを育成することも、本授業の大切なねらいです。

## ■ 到達目標

教育方法学の基本問題のレビューを通して、未解決・未解答の諸問題を認識できることが、本講義の到達目標の一つです。もう一つは、将来の教育実践のつまずきを教育方法学の問題領域に位置づける眼の土台を作ることにあります。それを通して、実践的指導力の土台形成を図ることが本科目のテーマです。

## ■ 科目の計画・内容

| 学習範囲<br>該当する章など | 学習内容   |
|-----------------|--|
| まえがき<br>第一章第一節  | 教育方法学の性格<br>教育方法学の性格とはどのようなものか、との観点から「まえがき」「第一章第一節」を熟読してください。教育方法学の実践科学的な性格の意味を捉えることが大事となります。                        |
| 第二章第一節          | 教育方法理論の歩みとその特質（1）<br>コメニウスの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。  |
| 第二章第二節          | 教育方法理論の歩みとその特質（2）<br>ルソーの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。    |
| 第二章第三節          | 教育方法理論の歩みとその特質（3）<br>ペスタロッチの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。 |
| 第二章第四節          | 教育方法理論の歩みとその特質（4）<br>ヘルバルトの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。  |
| 第二章第五節          | 教育方法理論の歩みとその特質（5）<br>ヴィルマンの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。  |

| 学習範囲<br>該当する章など       | 学習内容   |
|-----------------------|--|
| 第二章第六節                | 教育方法理論の歩みとその特質（6）<br>デューイの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。   |
| 第二章第七節                | 教育方法理論の歩みとその特質（7）<br>ブルナーの教育方法理論について、時代背景、教育と教授の意図とその体系、方法の特徴という観点から精読してください。<br>できれば、翻訳でもかまいませんので、原典を参照することを勧めます。   |
| 第三章第一節<br>第二節         | 教師と子どもとの教育的関係（1）<br>教育的な人間関係のあるべき大切な姿とはどのようなものか、との観点から、この章を読み進めて下さい。<br>そうすると、教育方法の両極的な姿を掴むことができるはずです。   |
| 第四章第一節<br>第二節         | 子ども理解と自己理解の促進（1）<br>子ども理解と指導は、どのような関係にあるのか、との観点から、特に第一節を熟読してください。それを踏まえ「自己理解を深めて、自己形成的存在にすることができれば、教育の本質的な任務は終了する」（110頁）の意味をしっかりとらえることが大切です。   |
| 第四章第一節<br>第二節         | 子ども理解と自己理解の促進（2）<br>子どもの自己理解をどう促進するか、との観点から、特に第二節を熟読してください。それを踏まえ「自己理解を深めて、自己形成的存在にすることができれば、教育の本質的な任務は終了する」（110頁）の意味をしっかりとらえることが大切です。   |
| 第五章第一節<br>第二節<br>第三節  | 学習指導と生徒指導（1）<br>教育と方法のそれぞれの意味とそれらの関係、教育方法の性格、教育方法の基本原則、学習指導と生徒指導のそれぞれの意味、そして両方の関係を理解すること、これらが本章では大切な点です。   |
| 第五章第一節<br>第二節<br>第三節  | 学習指導と生徒指導（2）<br>教育と方法のそれぞれの意味とそれらの関係、教育方法の性格、教育方法の基本原則、学習指導と生徒指導のそれぞれの意味、そして両方の関係を理解すること、これらが本章では大切な点です。   |
| 第十一章第一節<br>第二節<br>第三節 | 一斉授業と情報機器の活用<br>一斉指導の理論としてコメニウスの学校理論、一斉指導の実践的普及としてモニトリアル・システム、わが国の近代化以降の一斉指導の歴史、これら三つについてまずは把握して下さい。<br>後半は一斉指導の問題点とその克服の試みはどのようなものか、との問いを念頭に置きつつ、特に第二節と第三節を学習すること、そして学習の個別化に情報機器がどのように関係しているのかを考えることも大事である。 |

## ■ 学習方法・評価

| 種別   | 評価基準  |
|------|---|
| 試験   | 教育方法学の基礎的知識を問う問題が出題されます。  |
| レポート | レポートは、レポート課題解説をしっかりと読んでから、とりかかってください。そこに課題の意義、理解すべきこと、考えてもらいたいことなど、必要情報が詰まっているからです。 |

## ■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

## ■ 教科書

**書名：**教育方法学  
**著者名：**長谷川榮  
**出版社名：**協同出版  
**出版年：**2008.5  
**版：**  
**刷：**1  
**ISBN：**978-4-319-00225-2

## ■ 参考書

---

- ・ 著者名：ヒルベルト・マイヤー
- ・ 書名：『実践学としての授業方法学』
- ・ 出版社：北大路書房
- ・ 出版年および版：1998年

## ■ 履修上のアドバイス

---

レポート課題の解説に、参考図書を挙げています。必要であれば、参照してください。

## ■ 自習時間

---

レポート作成のための学習時間、また科目試験のための学習時間以外に、各回の講義ごとに、目安として2時間程度、学習に取り組むようにしてください。

## ■ 担当者のプロフィール

---

牛田伸一  
創価大学大学院文学研究科教育学専攻単位修得退学  
博士（教育学）